

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク グループA

- 「こどもをまんなか」の視点と委員のそれぞれの立場・地域ということも大事な柱に意見交換
- 「保護者・地域」については、とにかく地域の人口減少・急激な少子化を危機意識として持つことが必要との意見が多く出された。
- 具体的には、合同保育で一緒にいた園児が小学校で分かれてしまう課題が、2つの学園にまたがる地域の課題とも重なり、遠山郷学園だけでなく他の学園でも共通の悩みとなっていることが確認された。
- 遠山郷学園では、まちづくり委員会と学校運営協議会がひとつになっているが、こどもの教育環境の危機という共通認識があったものと分析した。他の地域では「ここがうまくいってないのでは」との意見も出され、このことは今後考えていく上で重要な視点であることが共有された。
- 「市・市教委」については、「保護者・地域」のところで危機意識が大事としたが、そのために、保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事だという意見が出された。
- 今後、施設の配置について協議をする際には「通学」に関する部分がネックになる可能性があるとの発言もあった。
- 遠山郷学園の取組から、それぞれの地域の課題が見えてきたとの意見もあった。

1

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループC**

ポイント - 結果共有のための発表から

- 参考になる点として、地域の主体性、分析的思考とその解決に向けた様々な実践、学校と地域でつくる学びの未来を考えている点、情報収集力やスピード感、対話と合意形成を大事にしている点等が挙げられた一方で、地域の中でも温度差や問題意識の違いがあったり、「こどもまんなか」とは言いながら「自分中心になっている」部分も出てきてしまうのではとの意見もあった。
- 市教委は、常に課題とミッションを共有しながら、地域の伴走に徹してくれている点、寄り添う姿勢は大切だとの意見があった。
- 取組の障害になっている点では、地域によって学園構想や学校のあり方についての問題意識の低さがあること、地域での議論に際しての仕組みや組織を立ち上げる際の委員の選出がポイントになるのではとの意見が出された。
- 今後このあり方審議会でも議論していくこととして、あり方の検討をする学園の優先順位をどうすれば良いのか、これまでの審議で明らかにしてきた目的地と道のりを、どういう乗り物に乗っていくのかというところを議論すべきとの意見をまとめた。
- 遠山郷学園は、1小学校1中学校の施設分離型を選択したが、他の学園は、今後の課題であることを考慮すると、ある程度の選択肢はこの審議会でも議論して提案をしていくことが大事ではないかとの意見が出された。

令和7年9月29日(月) 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 個別及びグループワークシート

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート

～ 遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組からの第2次答申に向けた論点抽出 ～

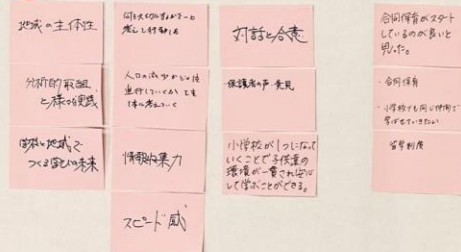
Group

ワークの目的

遠山郷学園内の小学校再編の参考取組を実例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。

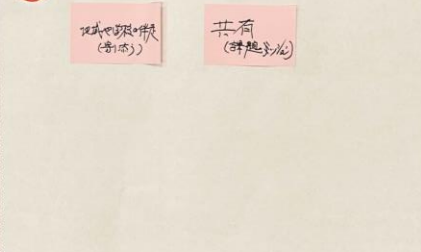
保護者・地域

1 地域や保護者の取組として、今後の参考になる点や大切にすべき取組や考え方



市教委・市

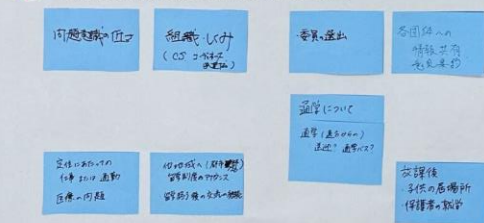
2 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、今後の取組に生かせる取組や支援



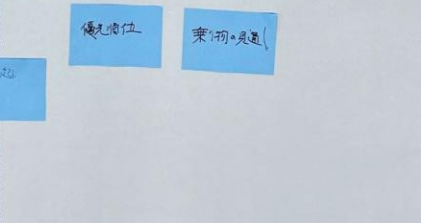
今後審議すべきテーマ等

良いところ・大事にしたいところを生かした取組のポイント

3 地域や保護者の取組として、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組



4 市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組



障害(進める上での難しさ)を取り除き改善しながら取組を進めるポイント

大事にすべき点、今後の参考になる点

取組の障害、進める上での難しさとなる点、気になる点